

平成 21 年度 病虫害防除技術情報 第 3 号

平成 21 年 6 月 26 日
大分県農林水産研究センター
安全農業研究所

高温乾燥に伴う野菜類の害虫防除対策について

本年は梅雨初期から降水量が少なく乾燥状態で推移しているため、コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類およびネギハモグリバエが多く発生しています。向こう 1 ヶ月間の気温、降水量ともに平年並と予想されているが、これまでほ発生が多いため今後とも被害拡大が懸念されます。発生動向には十分に注意し、害虫種によってはウイルス病を媒介しますので、速やかな防除に努めましょう。

1 発生の状況（7月1日発表 7月予報）

向こう 1 か月間において平年より多く発生すると予想される主な害虫は、以下のとおりです。

| 作物名 | 害虫名 | 発生面積（平年比） | 発生量（平年比） |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 夏秋トマト | コナジラミ類 | やや多い | やや多い |
| 夏秋ピーマン | アザミウマ類 | 平年並 | やや多い |
| | ハダニ類 | 多い | 多い |
| 白ネギ（平坦地） | ネギハモグリバエ | やや多い | やや多い |
| 白ネギ（中山間地） | ネギハモグリバエ | やや多い | やや多い |
| 小ネギ | ネギハモグリバエ | やや多い | やや多い |

- 1) 予報根拠等詳細は平成 21 年度 7 月病虫害発生予察情報参照
- 2) ネギ類のネギアザミウマは 5 月 1 日付け注意報発令中

2 防除の考え方

- (1) 多発生圃場では、1 回の薬剤散布のみでは十分な防除効果が認められない場合があるので、有効な薬剤の中からローテーション散布を行うと効果的である。
- (2) 害虫種によっては登録のある薬剤であっても抵抗性を獲得しており、防除効果が得られない場合があるので、薬剤の選定にあたっては関係機関の指導に従う。
- (3) 薬剤によっては、夏期高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間、天候および使用する展着剤の種類等を十分留意した上で散布を行う。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 防除薬剤は、作物によって使用できる薬剤が異なるので、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用する。
- (2) 薬剤は、大分県農林水産研究センター安全農業研究所ホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>）

